

平成23年度

学校経営の改革方針



鈴鹿市立神戸中学校

# 神戸中学校教育目標

心豊かに、前向きに生きる生徒の育成

## めざす学校像

生徒に自信と喜び、感動を与える学校

### めざす生徒像

- ・確かな学力を身につける生徒
- ・挨拶や正しい言葉づかいのできる生徒
- ・人の話をしっかり聴ける生徒
- ・ルール・マナーを守る生徒

### めざす教職員像

- ・自己研鑽に励み、実践力のある教師
- ・生徒や保護者から学び、  
生き方を磨き合う教師
- ・誠実に対応し、生徒・保護者から  
信頼される教師

## 鈴鹿市学校教育目標

「未来を拓く 心豊かでたくましい

子どもをはぐくむ 鈴鹿の教育」

### 鈴鹿五策

- 1 少人数教育の推進  
(一人一人を大切に、学ぶ意欲とわかる喜びを高める少人数教育の推進)
- 2 キャリア教育の推進  
(ものづくりを基盤として夢を育むキャリア教育の推進)
- 3 外国人生徒教育の推進  
(多文化共生のまちづくりにつながる外国人児童生徒教育の推進)
- 4 特別支援教育の推進  
(途切れのない支援をめざした特別支援教育の推進)
- 5 家庭・学校・地域が主体的に協働する地域ぐるみの教育の推進

# 現状と課題

## 1 学力保障

基礎学力の定着を目指し、少人数教育の利点を生かしてきめ細やかな指導を行うとともに、全職員で

① 学習規律の確立、② 学習意欲を高める工夫、③ 家庭学習の定着

に重点を置いた授業研究に取り組んだ。特に、家庭学習の定着においては、課題の出し方を工夫する取り組みを行った。このことによって、落ち着いて学習する雰囲気が出てきた。

しかし、家庭学習の習慣化にはまだまだ課題が多い。「家庭学習の手引き」がさらに有効活用されるような手立てが必要である。また、家庭学習の習慣づけと基礎学力の定着を目指した課題や効果的な授業づくりにつながる学習課題提示の工夫が必要である。さらには、小学校の学習内容が十分定着していない状況から、小中学校連携による学力保障の取組も課題である。

## 2 生徒指導

多くの生徒の生活態度は良好で、頭髪や服装なども概ね中学生らしく、落ち着いた状況にある。部活動も活発で、素晴らしい成績を上げている。また、昨年度2学期より新校舎に移転し、少しずつ落ち着いた環境になってきている。しかし、規範意識が未熟で、校則違反や校内外での問題行動を繰り返す生徒がいることも事実である。また、不登校の高い出現率が続いており、生徒指導の一貫性を保つことや個々の生徒が抱える背景(家庭環境など)の把握などが課題である。担任・学年集団で個々の家庭と連絡をとりながら、スクールカウンセラーやボランティア、専門機関と連携・協力して具体的かつ有効な対策をとる体制もできてきており、さらに充実した生徒指導対応の推進が必要である。

## 3 人権教育(豊かな人間性の育成)

道徳の時間を中心に、障がい者差別、部落差別、外国人差別などの人権学習に取り組んできた。また、身近な問題を学年集会や学年通信などで積極的に取り上げ、いじめや差別をなくしていく努力を繰り返し訴えたり、道徳や学活で周りの人を大切にする力が身につくように繰り返し指導できた。その結果、いじめ問題や差別事象に対する意識が高まり、解決しようとする意欲的な生徒が少なからずあらわれた。しかし、豊かな人権感覚や規範意識が十分に高まったとはいえない。道徳の時間のさらなる充実と共に、総合的な学習の時間・学活などでグループエンカウンターやQ Uを活用して人間関係の改善を図るなど心豊かな人間性を育成する必要がある。

## 4 開かれた学校

学校のHPやメール配信が充実され、「学年通信」や「学校だより」も盛んに発行され、学校からの情報発信は年々充実してきている。また、年間2回の学校評価アンケートを生徒保護者対象に行い、多くの声を得ることができた。さらに多くの声を得るためにアンケートの実施方法や回収方法の工夫が必要である。地域との連携においては、学校支援地域本部事業を受け、保護者や地域の学校支援ボランティアの方々から日常的な支援を受けている。今後は、生徒の豊かな体験活動を保障する観点から、地域行事に参加する機会を大切にした幅広い連携の構築が課題である。

さらに、幼小中連携推進事業においては、学期ごとに研修会をもつなどして、校区の幼稚園・小学校・中学校がどのような課題意識をもって連携して子どもの育成にあたるか、その方策も含めて共通理解する機会としている。

# 中長期的重点目標

## 1 学力保障・進路保障

- (1) 学力保障支援システムの構築
- (2) 授業力の向上
- (3) 学習習慣の育成
- (4) 日本語指導の充実
  - ・教科学習を通しての日本語学習の充実
  - ・学習言語の習得
- (5) 途切れのない特別支援教育の充実
  - ・幼小中高，関係機関，専門機関との連携の強化充実

## 2 生徒指導

- (1) 規範意識の育成
  - 生徒会・委員会活動の活性化
- (2) 自尊感情の育成
  - ほめる教育，達成感の育成
- (3) キャリア教育の充実
- (4) 指導体制の確立
  - 指導姿勢の一貫性，初期対応の適正化，関係機関との連携，ボランティア活用
- (5) 交通安全指導の徹底，校内美化指導の徹底

## 3 人権教育（豊かな人間性の育成）

- (1) 自分自身を大切にし，周りも大切にできる生徒の育成
- (2) 「道徳」の時間の充実
- (3) 人権学習やさまざまな体験学習の充実

## 4 開かれた学校

- (1) 保護者や地域との積極的な情報交換及び学校評価の推進
- (2) 学校運営協議会設置による地域との連携強化
- (3) 「幼小中連携」の活性化

# 本年度の行動計画

## 1 学力保障・進路保障

- (1) 「学力保障アクションプラン」の策定
- (2) CRTの分析 ～「弱み」への対策～
- (3) 授業力の向上（授業研究）
  - ・ 講師を招聘し「教えて考えさせる授業実践」についての授業分析を実施
  - ・ “共書き”，“聞き書き”等，「書く力」を育成する指導力の強化
  - ・ 事後研修，学習会を開催する
- (4) 家庭学習の充実
  - 「家庭学習の手引き」の改定，宿題の工夫，宿題・課題の点検方法の工夫
- (5) 補充学習の充実
  - 中タイム・放課後学習の充実，土曜スクールの開講，ボランティア活用
- (6) 基礎学力の定着
  - 学習支援が必要な生徒への具体的な対策

## 2 生徒指導

- (1) あいさつ・返事や正しい言葉づかい，人の話を聴く姿勢などに関する指導の徹底
- (2) 生徒や保護者との信頼関係を高める取り組みの推進
- (3) 校則違反・問題行動などを繰り返す生徒への指導の充実
- (4) 「キャリア教育推進計画」に基づき推進する

## 3 人権教育（豊かな人間性の育成）

- (1) 道徳の充実
  - 年間指導計画に即した授業実践，規範意識の向上
- (2) 人間関係づくり
  - グループエンカウンターやQ Uを活用した学級づくり
- (3) 人権学習や体験学習の充実
  - 人権センター訪問，職場体験学習，各種ボランティア活動への参加
  - 集団宿泊学習・社会見学・修学旅行の充実

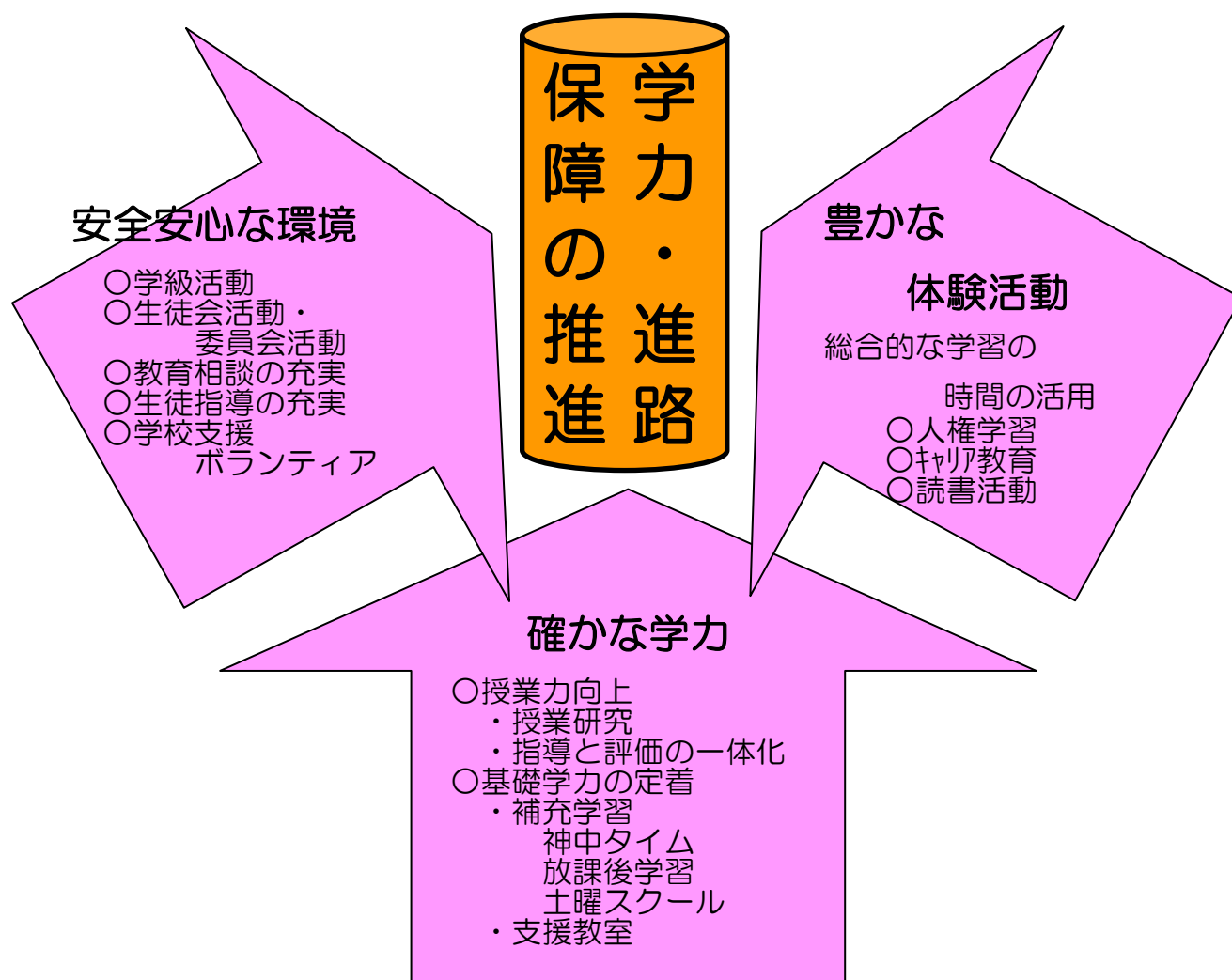
## 4 開かれた学校

- (1) メール配信・学校ホームページの更新，各種通信の充実
- (2) 学校公開デーの充実
- (3) 幼小中連携の推進
- (4) 学校評価の充実
- (5) 学校運営協議会設置及び地域との連携強化

## 各推進委員会などの具体的な取り組み

	学力・進路保障	生徒指導	人権教育 (豊かな 人間性の育成)	開かれた学校
研修	授業研究 学習シラバス 家庭学習の手引き 教科部会 補充学習 学力向上アクションプラン キャリア教育	授業規律の確立	人権学習	授業公開  ボランティア活用
評価検討	評価方法・基準			評価の説明責任
生徒指導		生活指導 指導体制の確立 交通安全指導 校内美化指導		家庭・地域との連携 ボランティア活用 関係機関との連携
教育相談	支援教室 不登校生徒の学力保障	教育相談の充実 グループエンカウンター・ QUの活用		ボランティア活用
人権同和 教育	進路保障	豊かな心の育成 自主活動	人権学習 教職員研修	
国際教育	取り出し授業 JSLバンドスケール活用 日本語指導の工夫 進路ガイダンス		人権学習 (題材協議)	日本語教室の充実 ボランティア活用
特別支援 教育	支援計画・指導計画 特別支援の教育課程		人権学習 (題材協議)	関係機関との連携
生徒会 活動		生徒会・委員会 活動の活性化	いじめ防止の 取り組み	体育祭 文化祭 合唱コンクール 地域での活動
幼小中 連携	学習規律の確立 授業参観	生活規律の確立		出前授業 壁新聞
教務	補充学習 土曜スクール			学校評価 幼小中連携

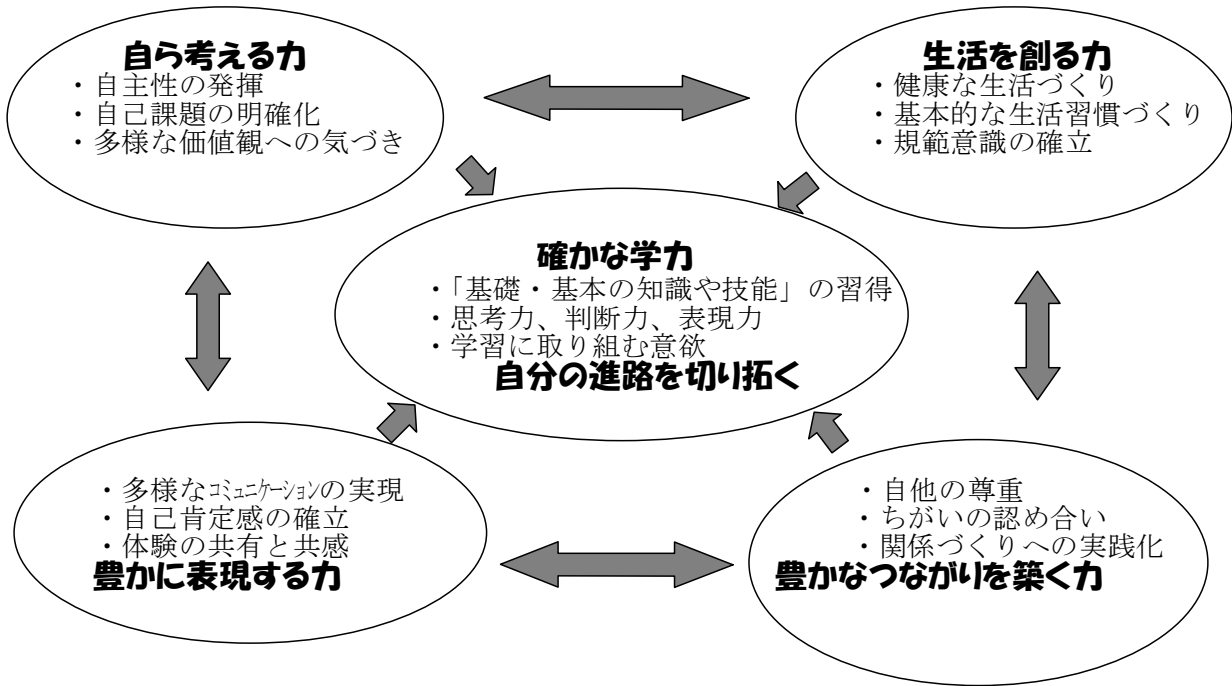
# 心豊かに前向きに 生きる生徒の育成



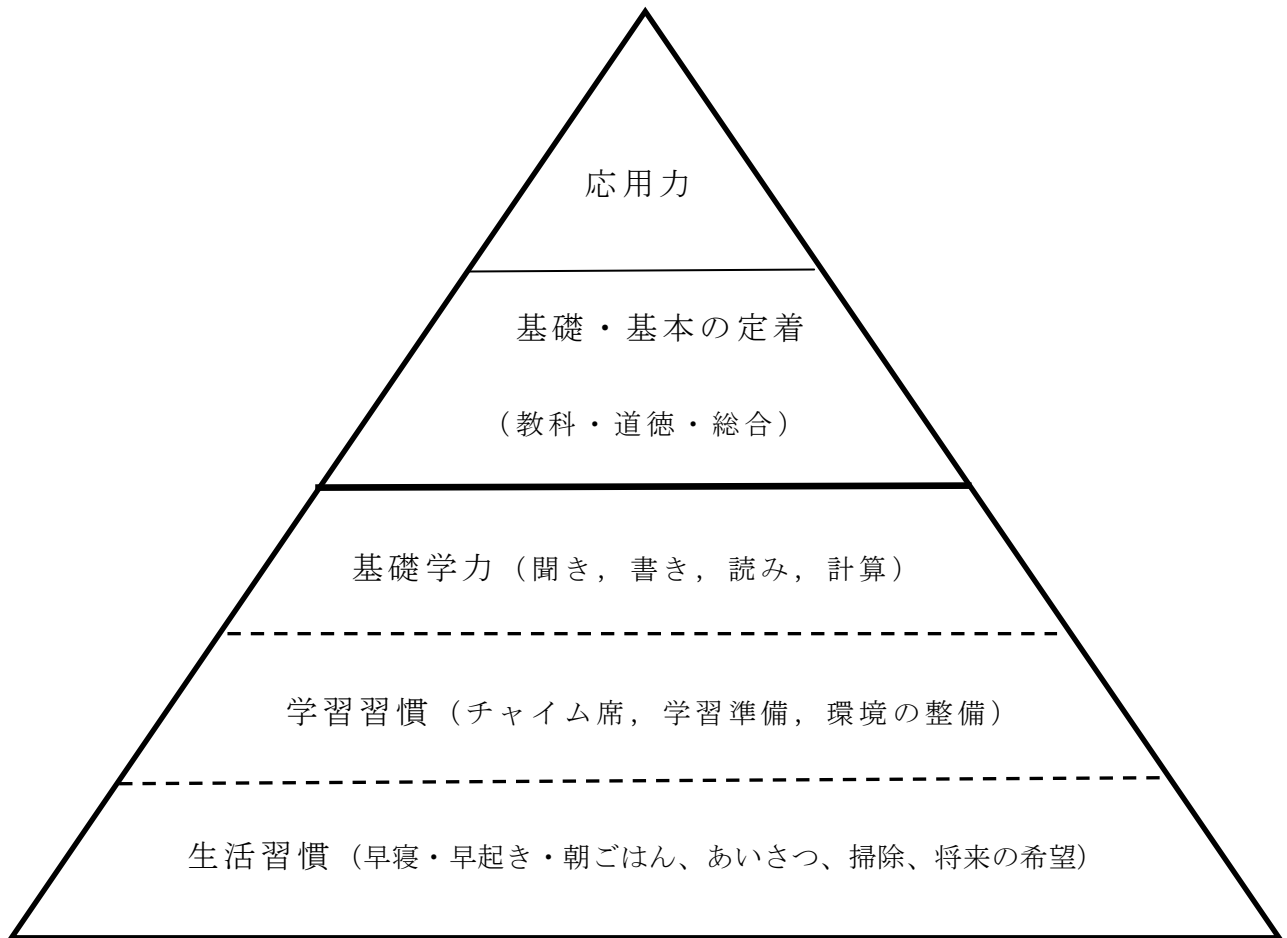
## 基本的な生活習慣の確立

- 早寝早起き朝ごはん
- 家庭学習の習慣化
- あいさつ・返事・チャイム席

## 【育てていきたい力】



## 【確かな学力の基盤】



## 【具体的な手立て】

### <授業研究>

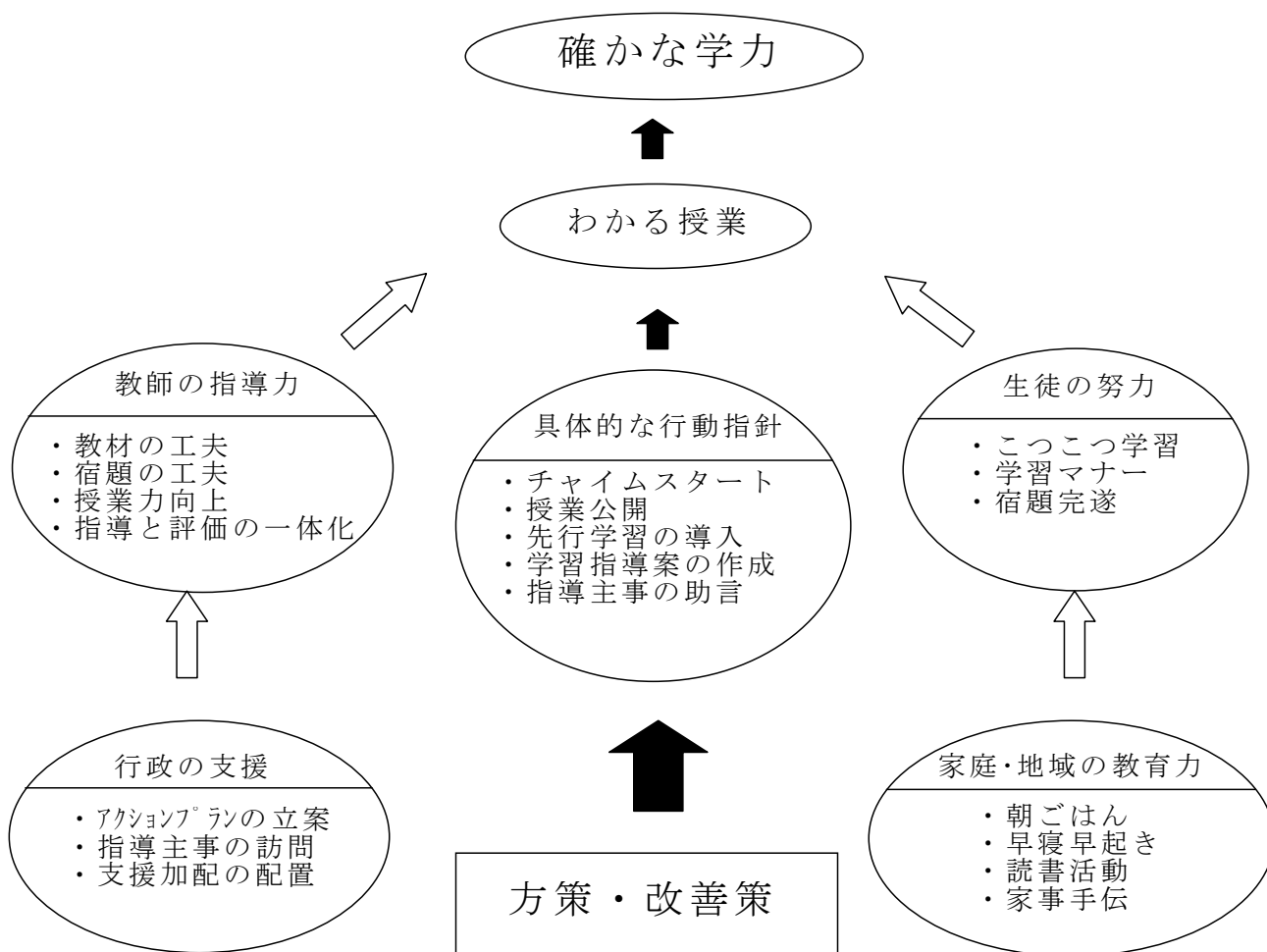
- ・学習習慣としての「授業規律」の確立
- ・教科の特性に応じた学習形態の工夫
- ・教師の指導力向上に向けた授業チェックシートの活用
- ・一人ひとりの学力・進路を保障する各推進委員会の提案取組の把握と検討

### <家庭学習>

- ・「わかる授業」に向けた予習
- ・「基礎・基本の定着」に向けた復習
- ・授業と家庭学習をつなげる「放課後学習」, 「土曜スクール」

### <評価>

- ・学習シラバスの有効活用
- ・子どもの授業評価
- ・学力実態の適切な把握（CRTの分析）
- ・生徒を励ます評価の工夫



# 各推進委員会の取り組み

## ＜研修推進委員会＞

### 1 平成22年度の成果と課題

- 成果 ○ 全員が学習指導案を作成し、授業実践をすることができた。
- 多忙な中でも皆が協力をして授業研究することで、日頃の学習指導を振り返ることができた。
- 著名な授業実践者を招いて、授業づくりについて学ぶことができた。
- 課題 ○ 先行学習を取り入れた授業づくりをどう深めていくか。
- 研究授業を大勢でじっくりと参観できる環境づくり。
- 充実した事後研修の工夫。
- 助言者の招聘と、指導技術の磨き合いをどう進めるか。

### 2 平成23年度の方向性

#### 目標1(中長期的)

- 確かな学力を育む。
- 豊かな心を育てる。

#### 目標2(平成23年度、努力事項)

- 生徒が意欲的に取り組む授業の実践
- 安心して学べる学習環境作り

#### 具体的活動・取り組み(方策)

- 授業研究の実践
- CRTの実施と分析・活用 → 低学力生徒へのケア・サポート
- QUを活用した集団作り活動
- 鈴教研の研究指定 → 計画的な研修の推進(2年間)  
少人数指導によるきめ細やかな指導の充実  
学力向上アクションプラン策定  
小中学校連携による学力保障の取組推進

## ＜人権・同和教育推進委員会＞

### 1 平成22年度の成果と課題

- 成果 ○ 校内外の人権活動に、自ら参加しようとする子どもの増加
- 障がい者差別をなくす取り組み(「ぬくたいフェスタ」を通じた人権学習・活動)の中学校区への広まり
- 障がい者問題に対する教職員や子どもたちの人権意識の高まり
- 当事者の子ども(特別支援の子どもたち)を含めた人権活動の実現
- 課題 ○ いじめや差別を起こさない環境(雰囲気)づくり
- 当事者の子どもたちを中心にした人権自主活動の充実

- 学力・進路保障への取り組みの具体化

## 2 平成23年度の方向性

### 目標1(中長期的)

- 一人ひとりが思いを出し合い、互いに支え合う人間関係の育成
- 一人ひとりの自己実現を図る学力進路保障の充実

### 目標2(平成23年度、努力事項)

- 互いの思いを出し合い、受け止め合える仲間づくりの推進
- 仲間とともに、差別を解消しようとする自主活動の育成
- 差別解消の主体者となるための教職員研修の実施
- すべての子どもの学力・進路保障につながる取り組みの具体化

### 具体的活動・取り組み(方策)

- 参加体験型学習などを取り入れた子どもが主体となる人権学習・なかまづくりの実施
- 校内人権活動の創造と充実
- 校区の人権課題の解決につながる教職員研修の実施
- 保・幼・小・中、地域と連携した人権のまちづくりに対する主体的な参画

## <教育相談推進委員会>

### 1 平成22年度の成果と課題

- 成果 ○ 支援が必要である生徒を学校カウンセラーのアセスメントをもとに支援計画を作成。支援計画に基づき、支援教室で支援員と連携し、個別に必要な支援対応ができた。
- 支援1対象生徒の欠席日数減少。
  - 学校・学校カウンセラー・関係機関が連携し、虐待など家庭環境が主原因で不登校となっている生徒の効果的な対応ができた。
- 課題 ○ 支援教室での活動や生徒の様子が全教員に、じゅうぶん伝えきれなかった。
- 個別に支援を必要とする生徒に対し、対応する教員や支援員、部屋が不足。

### 2 平成23年度の方向性

#### 目標1(中長期的)

- 不登校生徒への対応
- 支援教室での対応が必要な生徒のアセスメントと支援計画の作成
- 教員・支援員が共在する支援室での個別支援・集団活動の充実

#### 目標2(平成23年度、努力事項)

- 長欠生徒20%以上減少
- 生徒・保護者とつながりにくく、対応が困難にある長欠生徒への対応

#### 具体的活動・取り組み(方策)

- 指導だけでは対応が困難な生徒を学年→教育相談部会で検討し、個別支援の必要性を含めた具体的な対応を検討する。
- 学校カウンセラー・支援員・関係機関と連携し、「子どもの姿・生活」が地域・学校の中で把握できるようにする。

## <生徒指導推進委員会>

### 1 平成22年度の成果と課題

- 成果 ○ 突出生徒が多数いる中、全学年が本体の指導・部活などの活動を健全に保ってきたこと。  
○ 学年内・学年間で教師集団が協力しあったこと。  
○ 多くの学校ボランティアの方が学校に入ってくれ、支えていただいたこと。
- 課題 ○ 突出生徒・保護者の対応に教師が心身共に疲労させられること。  
○ 問題行動に対する初期対応を誤ることがないように、職員間の報告・連絡を密にし「チームで動く」という意味を全員で把握、共通理解すること。  
○ 逸脱行動の著しい生徒への対応や指導方法の研修。  
○ 支援教室とそれ以外での場面での指導方針の共通理解をすること。  
○ 授業に入りにくい生徒に対する原学級への復帰に対する支援。  
○ 相談部会との連携の持ち方。

### 2 平成23年度の方向性

#### 目標1(中長期的)

- 規律ある、落ち着いた雰囲気为学校生活を一人ひとりの生徒が送る
- きめ細かな丁寧な指導を心がけ、基本的な生活習慣の育成を目指す。
- 規範意識を持った生徒を育てる。
- あいさつのできる生徒を育てる。

#### 目標2(平成23年度努力目標)

- 学級経営を中心に据えた生徒指導の取り組み
- 学級・部活動・集会指導を3本柱として取り組む。
- 教科指導、昼食指導、美化指導、部活指導など様々な場面において、魅力ある神中文化の醸成のために一人ひとりの教師が意識して取り組む

#### 具体的活動・取り組み(方策)

- 職員会議など全体の場での情報交換を十分行い、生徒指導の状況について職員間の意識にズレが生じないようにする。
- 家庭訪問などにより、保護者との関係を十分に築き、学校に対して協力を得られる状況を作っていく。
- ベテランの教師が過去の知識・経験をもとに若手教師に助言・指導を進んで行い、将来の神戸中学校を担う教師を育成していく。

## <生徒会推進委員会>

### 1 平成22年度の成果と課題

- 成果 ○ 新しい校舎初の学校行事を盛り上げることができた。  
○ 委員会において継続して活動を行うことができた。  
○ 生徒が主体的に校則を改正することができた。

- 課題 ○ 運営面、指導面において検討の浅い部分が多く感じられた。
- いじめ撲滅に向けての取り組みが弱かった。
  - 新校舎に移り、継続して活動している委員会とそうでない委員会の活動の差が大きかった。

## 2 平成23年度の方向性

### 目標1(中長期的)

- 生徒一人ひとりが生徒会の一員であると自覚し、それぞれが輝ける場所づくりを目指す。

### 目標2(平成23年度、努力事項)

- 日常活動(あいさつ運動など)の充実
- 委員会活動の充実
- 学校行事の充実
- 特別活動として、いじめ根絶運動を継続する

### 具体的活動・取り組み(方策)

- あいさつ運動を週1回おこなう。
- 生徒会委員会を月1回以上おこない、委員会独自の活動をおこなう。
- 生徒が主体的に企画・活動をする。
- 生徒会通信や委員会活動を通して、いじめ根絶に向けた取り組みを行う。

## <国際教育推進委員会>

### 1 平成22年度の成果と課題

- 成果 ○ 日本語教室での授業は比較的まじめに取り組む生徒が多かった。
- 生徒は簡単な日常会話程度の日本語が理解できるようになった。
  - 全体研修会を開催し、多くの教員がバンドスケールに関わった。
  - アンケートを実施し、生徒が感じている日本語の理解度を知ることができた。

- 課題 ○ 取り出し授業から教室の授業に戻った生徒のフォローが十分にできなかった。
- バンドスケールの活用についての研修が必要である。
  - 委員会としての目的や方向性が担当者に十分理解できていなかった。

### 2 平成23年度の方向性

#### 目標1(中長期的)

- 生徒や教員がより深く知りあい、学び合い、豊かな関係を築く。
- 外国籍生徒の学習や進路を保障する。
- 保護者への適切な情報発信を行う。

#### 目標2(平成23年度、努力事項)

- 学級・生徒会・人権教育・関係機関と連携し、課題解決の取り組みを行う。
- 定期テストや受験に対応できる学力の育成。

#### 具体的活動・取り組み(方策)

- 全体研修会の実施。
- バンドスケールによる教員の生徒理解の促進。
- 日本語教室での教科学習・水曜日の放課後学習・教室の授業支援。

## ＜特別支援教育推進委員会＞

### 1 平成22年度の成果と課題

成果 ○ 大きな成果はないが、一人の生徒への「差別事象」を通じて、全職員に特別支援学級籍の生徒について、どう接していったらいいかを考えてもらう機会となった。

課題 ○ 年間数回ほどの、委員会しかもてなかった。

○ 学年や学校全体に特別支援学級籍の生徒の様子や課題等を情報提供していくべきであった。

○ この委員会の代表は、特別支援学級の担任が担当するよりも、担任外の例えば「コーディネーター」等が担当した方が望ましいと思われる。

### 2 平成23年度の方向性

#### 目標1(中長期的)

○ 障がいの有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な生徒たちが生き生きと活動できる共生社会の基礎を築く。

#### 目標2(平成23年度、努力事項)

○ 特別支援学級の生徒たちが、学校生活において、安心して過ごし、喜びを感じ、希望をもって生活できる環境づくりに努める。

○ 取り出し授業により、特別な教育的支援が必要とする生徒の支援を、個々の将来の可能性を見据えておこなう。

#### 具体的活動・取り組み(方策)

○ 特別支援学級の生徒たちの現状や課題について情報交換をおこなう。

○ 個別の教育支援計画、指導計画を作成し、保護者の理解を得ながら、個々のニーズにあった支援をおこなう。

○ 日々の教育活動において、共生教育に関する取り組みを続けていく。

## ＜幼小中連携推進委員会＞

### 1 平成22年度の成果と課題

成果 ○ 3回の研修会を通じて、各園・校の現状や取り組みを交流し、多くのことを学ぶことができた。事後のアンケートでは参加者の約95%が“よかった”と回答。“今後の実践に役立つことが得られた”との声も参加者の約90%からあった。

○ 11月、2月の研修会では外部講師による授業実践と学習環境づくりについての講演会から、校種や教科を問わず、学習環境がいかに大切であるかを共通して再認識することができた。

○ 中学1年生が各小学校6年生に、贈った中学校生活を紹介する壁新聞やリーフレットがとても好評であった。

課題 ○ 基礎学力の定着を目指し、幼小中連携の中で学力保障に向けた具体的な取り組みが必要である。

○ 各園・校の現状や取り組みを交流する中で、課題の共有はできたが、「学力・生徒指導」に

絞り込んだ連携の推進には、まだ至らない点が多かった。

- 公開授業の機会があってもなかなか参観できなかった。

## 2 平成23年度の方向性

### 目標1(中長期的)

- 幼小中のスパンで子どもの育ちを見つめ、協働して取り組むことを確認し合う。
- 「めざす子ども像」の共有を常に図る。

### 目標2(平成22年度、努力事項)

- 基礎学力の向上に向けた学習規律・生活規律の確立に引き続き、連携して取り組む。
- 授業参観など(子どもを観ること)を通じて、連携すべき課題を具体的にイメージし、取り組みに繋げる。

### 具体的活動・取り組み(方策)

- 連携の枠組みの中で各園校が具体的な取り組みを行い、実践交流する。
- 子どもの交流(児童会・生徒会など)、教職員の交流(授業参観など)にもっと積極的に取り組む。

## <評価検討委員会>

### 1 平成22年度の成果と課題

- 成果
- 学習シラバスと家庭学習の手引きの改訂版の配布。(研修推進委員会)
  - 観点別評価と評定との関係を確認し、教科間で差異がないようにした。(1学期)
  - 通知表の様式を検討し、改訂した。
  - 年度当初に教科部会で評価方法・規準について確認した。

- 課題
- 評価について説明を求められることがあった。  
その評定結果に至るまでの、指導と評価の一体化へさらなる努力が必要であり、指導に合わせた評価活動の工夫が求められている。
  - 教科部会を充実させることができなかった。
  - 生徒・保護者への選択教科の学習内容の説明が不十分だった。

### 2 平成23年度の方向性

#### 目標1(中長期的)

- 指導と評価の一体化を目指した評価活動を行う。

#### 目標2(平成23年度、努力事項)

- 学習者支援の視点に立った評価活動
- 評価方法の技術的な向上
- 教科部会の充実を図る。

#### 具体的活動・取り組み(方策)

- 学習シラバスの有効活用。
- 年度当初に評価について研修会を開催し、評価方法・規準について確認する。
- 指導と評価の一体化を目指した評価活動をおこなう。
- 各学年で学期ごとに評定分布表を作成し、評価方法・基準を再検討する。

# 平成23年度 学年経営方針・活動内容

## ＜第1学年＞

### 1 学年経営方針(目標)

基本的な生活習慣及び学習規律の確立といじめのない集団づくり

### 2 活動内容(具体的な方策)

#### ○ 学力・進路保障への取り組み

支え合う集団, 基礎・基本に視点を置いた授業づくりに取り組む

- ・ 家庭学習の習慣化を図り, それを学校での学習に生かせる授業づくりに取り組む
- ・ 個に応じた学習指導を行い, それぞれの学力にあったきめ細かい指導を行う

#### ○ 生徒指導への取り組み

- ・ 「あいさつをする」「服装を整える」「掃除をする」「チャイム着席をする」「不要物を持ってこない」「遅刻をしない」「朝読をする」など基本的な生活規律を徹底させる。
- ・ 「忘れ物をしない」「提出物を出す」「私語をしない」「ノートをとる」「授業に集中する」など基本的な学習規律を徹底させる
- ・ 家庭連絡, 家庭訪問を密にすると共に, 場合に応じて地域や外部関係機関と連携して学校, 家庭, 地域, 外部機関全体で子どもを守るという姿勢をもつ
- ・ 学年間, 管理職等の連絡を早く確実に言い, 早急な対応ができるようにする

#### ○ 人権教育・いじめ問題への取り組み

- ・ 個人個人が自ら行動できるように被差別の立場に立った人権教育を行う
- ・ 生徒の行動や様子の変化に気づき, 早急な事実確認と適切な指導を行う
- ・ いじめを生まない心の教育と学級集団作りに取り組む
- ・ 体験学習を取り入れる。

#### ○ 不登校への取り組み

- ・ 家庭や本人との連絡を密にして不登校の原因を把握し, その原因をできる限り取り除く努力を行い, 登校しやすい環境をつくる
- ・ 保護者や外部機関, カウンセラーなどとの連携を深めていく

#### ○ 道徳教育への取り組み

- ・ 心に響き, 人間性を豊かにする教材を使い, 年間計画にのっとった道徳を実施する。
- ・ 外部の人材を積極的に活用して講話を聞き, 豊かな感性を育てる。

#### ○ その他

- ・ 各行事や生徒会活動, クラブ活動などに積極的に参加することで中学校生活に早く慣れ, 神戸中学校の一員であることを自覚させる。

## ＜第2学年＞

### 1 学年経営方針(目標)

基本的な生活習慣及び学習規律の確立といじめのない集団づくり

### 2 活動内容(具体的な方策)

#### ○ 学力・進路保障への取り組み

- ・ 基礎・基本に視点を置いた授業づくりに取り組む
- ・ 「忘れ物をしない」「提出物を出す」「私語をしない」「ノートをとる」「授業に集中する」など基本的な学習規律を徹底させる
- ・ 教師の指導力向上のため研修に取り組む
- ・ 家庭学習の習慣化を図り、それを学校での学習に生かせる授業づくりに取り組む
- ・ 「朝読」を充実させ、落ち着いた1日のスタートをはかる
- ・ 「職業体験学習」を中心にキャリア教育に取り組む

#### ○ 生徒指導への取り組み

- ・ 「あいさつをする」「服装を整える」「掃除をする」「チャイム着席をする」「不要物を持ってこない」「遅刻をしない」「朝読をする」など基本的な生活規律を徹底させる
- ・ 生徒との関わりを大切にするとともに、教師間で情報を共有して全員で生徒指導に取り組む
- ・ 家庭連絡、家庭訪問を密にするとともに、場合に応じて地域や外部関係機関と連携して学校、家庭、地域、外部機関全体で子どもを守るという姿勢をもつ
- ・ 学年間、管理職等の連絡を早く確実に行い、早急な対処ができるようにする

#### ○ 人権教育・いじめ問題への取り組み

- ・ 一人ひとりが自ら行動できるように被差別の立場に立った人権教育を行う
- ・ 生徒の行動や様子の変化に気づき、問題があるときは保護者と連携して、早急な事実確認と適切な指導を行う
- ・ いじめを生まない心の教育とグループエンカウンター等のスキル学習に取り組み人間関係を良好にするよう学級集団作りに取り組む

#### ○ 不登校への取り組み

- ・ 家庭や本人との連絡を密にして不登校の原因を把握し、その原因をできる限り取り除く努力を行い、登校しやすい環境をつくる
- ・ 保護者や外部機関、カウンセラーなどとの連携を深めていく
- ・ 支援担当と連携して、支援教室での取り組みをすすめ、教室への復帰をめざす

#### ○ 道徳教育への取り組み

- ・ 心に響き、人間性を豊かにする教材を使い、年間計画にのっとった道徳を実施する。
- ・ 外部の人材を積極的に活用して講話を聞き、豊かな感性を育てる。

#### ○ その他

- ・ 各行事や生徒会活動、クラブ活動などに積極的に参加させ、これから神戸中学校を担っていく自覚を持たせる。
- ・ 積極的に清掃活動に取り組みせ、清潔できれいな学習環境をつくる

## <第3学年>

### 1 学年経営方針(目標)

互いに大切にしたい、支え合うことのできる生徒(仲間)を育む

- ・ 基本的な生活習慣と授業(学習)規範の確立 ・いじめのない、あたたかい学校生活の保障

### 2 活動内容(具体的な方策)

#### ○ 学力・進路保障への取り組み

- ・ 授業規範の確立(チャイム着席・忘れ物／私語／立ち歩きをなくす・ノートをとる など)
- ・ 授業の充実(基礎学力の定着に始まる確かな学力の保障
  - ・ 教師＝前向きな研修・指導力の向上・生徒＝家庭学習の習慣化)
- ・ 「神中タイム」の充実(自学自習の雰囲気醸成など)
- ・ 「朝の読書」の充実(国語力の育成・落ち着いた一日のスタート)
- ・ 「マイ学」(受験対策、三年間の5教科の総復習ドリル)の充実
- ・ 学活、総合の時間などでのキャリア学習の充実(特に「修学旅行」)

#### ○ 生徒指導への取り組み

- ・ 基本的な生活習慣の確立(あいさつができる・身だしなみを整える・時間を守るなど)
- ・ 生徒“一人ひとりを大切にする”姿勢(愛情に裏付けられた毅然たる態度)
- ・ 生徒指導担当者を中心に学年全教師による情報の共有、相互理解、力をあわせた取り組み
- ・ 家庭連絡や家庭訪問の充実(家庭・保護者との連携)
- ・ 教育相談の充実など、一人ひとりの生徒と関わる機会を多く持つ

#### ○ 人権教育・いじめ問題への取り組み

- ・ 生徒＝「優しさ(思いやる心)・賢さ・強さ」を身につける
- ・ 教師＝「いじめや差別を決して許さない」姿勢
- ・ 道徳の授業や人権学習の充実
  - (家庭・保護者にも伝えて理解を得る・いつでも支援を得られる態勢をつくる)
- ・ 問題が発生した場合は、特に家庭・保護者との連携を大切にする

#### ○ 不登校への取り組み

- ・ 不登校の要因の発見と除去に努める(不登校生徒を生まない学級・学年)
- ・ 不登校生徒への定期的な家庭訪問(家庭・保護者との連携、悩みの共有)
- ・ 外部機関やカウンセラーの紹介や活用

#### ○ 道徳教育への取り組み

- ・ (場当たりの道徳ではなく)年間を通じての計画的な指導
- ・ “道徳”的な問題が見られた場合、機会を逃さず実践的な道徳の授業を実施

#### ○ その他

- ・ 分かり合おうと努力する、支え合おうとする生徒集団と教師団 リーダーの育成
- ・ 生徒との心のふれあいをたいせつにできる場の設定(「生活ノート(ライフ)」の活用など)
- ・ 生徒や保護者、教師が互いに語り合うことのできる場の設定(「学年通信」など)
- ・ 清潔で心あたたまる生活空間の演出(教室・廊下・トイレなど)
- ・ 生徒を大切にする教師団、生徒に大切にされる教師団

# 平成23年度 神戸中学校 キャリア教育推進計画

～「新しい自分づくり、進路を切りひらく自分づくり」をサポート～

## 1 主な取組内容

- コミュニケーション能力等の社会性を育てるスキル教育（エンカウンターの手法を活用）
- インタビューとプレゼンテーション
- 職場体験学習
- ゲストティーチャーを招いての講演会（「身近な人」、「達人」、「先輩」など）
- 将来の人生設計（キャリア設計）を考える学習（「10年後、20年後の自分」）
- 「いのち」の教育（妊婦さん等のふれあいの中で「いのち」の尊さを実感する）
- 進路学習（自分の個性・適性を考え、上級学校の教育内容や特色を学び進路選択をする）

\* キャリア教育ということで、特別な取り組みをする必要はない。

\* 「キャリア教育の視点」から様々な取組を結びつけ、どんな自分をつくっていくのか、どんな人生を歩んでいきたいのか等を考え、体験していくことを支援する教育がキャリア教育である。

## 2 身につけたい力、姿勢

- 望ましい勤労観・職業観を身に付ける。
- 将来の夢や目標を見だし出す。（「夢見る力」、「自分なりの生き方を見つける力」）
- 自己実現に必要な様々な能力を獲得する。
  - 「人間関係形成能力」
  - 「情報活用能力」
  - 「将来設計能力」
  - 「意志決定能力」
- 自己実現していく素晴らしさ、社会に貢献していく尊さを心に刻みつける。

\* 自己肯定感（自尊感情）、自己有用感、自己効力感等の育成につながる。

## 3 年次計画

### 1 年次：「新しい自分づくり」

- 1学期** ○スキル教育の徹底（「態度」教育の徹底）
  - ・「その場」、「その状況」でどういう言葉づかいが必要かを徹底的に指導
- 集団宿泊学習の中での集団行動、スキル教育（インストラクター等による指導）
- 2学期** ○体育祭、合唱コンクールに向けた仲間づくりの取り組み
  - ・つながることのうれしさ、大事さを実感する
  - ・構成的グループエンカウンターを継続的に実施。

- 3学期** ○「ゲストティーチャーを招いての学習」
- ・「出産」、「命の神秘」、「親の願い」等を助産師さんらの力を借りて学習する。
  - ・市役所防災安全課の支援をいただき、防災学習を行う。
- ※ 教師から積極的に信頼関係を築き安心感を与えながら地道にスキル教育を継続。

## 2年次：「豊かな自分づくり」

- 1学期** ○スキル教育の徹底（「態度」教育の徹底）
- ・「その場」、「その状況」でどういう言葉づかいが必要かを徹底的に指導
- 社会見学：事業所訪問
- ・生きがい、仕事の苦勞等のインタビュー
  - ・事後の「プレゼンテーション」
- 2学期** ○職場体験学習への取り組みの強化・充実
- ・「達人」等、ゲストティーチャーによる講演会の開催
  - ・「マナーアップ講座」等を開催して職場体験に向かわせる。
  - ・事後の学級・学年内の「プレゼン」を充実させる。
- 3学期** ○「いのち」の学習
- ・“生と死”を深く見つめる学習を実施し、「夢」や「希望」を持つことの大切さ、よりよく生きようとすることの素晴らしさを実感する学習を実施。
- ※ 「職場体験で大きく成長！」をめざし、1学期から継続した取り組みを展開する。

## 3年次：「進路を切りひらく自分づくり」

- 1学期** ○修学旅行の取り組みの充実
- ・「その場」、「その状況」でどういう言葉づかいが必要かを徹底的に指導
  - ・修学旅行での「インタビュー」、旅行後の「プレゼンテーション」
- 「ようこそ先輩」の開催（高校3年生による体験発表）
- 2学期** ○体育祭、合唱コンクールでの仲間づくり
- 高校の先生を講師に迎えての学校説明会の開催
- 3学期** ○面接対策シートへの記入や面接練習を重ねる

※ 学力・進路保障実現のため基礎学力を定着させ、勉強への意欲を引き出す指導を充実する。

平成 23 年度 神戸中学校 学校運営協議会

1 運営協議会参加者

N O	役職	職 業	名 前
1	委員 長	十宮地区自治会長	吉川 仁美
2	副委員長	保護司	衣斐 泰子
3	委員	鈴鹿市健全育成市民会議 事務局 長	林 佳代子
4	委員	鈴鹿市防災安全課 副参 事兼 GL 元 PTA 会長	石坂 健
5	委員	自動車販売・整備業 元 PTA 会長	阿部 雅登
6	委員	神戸高校校長	森川 泉
7	委員	保護司	北川 昇三
8	委員	本校 PTA 会長	沼田 昭弘
9	委員	本校 スクールカウンセラー	米田 奈緒子
1 0	委員	本校 校長	一見 勝美
1 1	事務局	本校 教頭	徳井 道昭
1 2	事務局	本校 教頭	橋本 伸清
1 3	事務局	本校 担当教員	須藤 雅哉

## 2 組織図

平成23年度鈴鹿市立神戸中学校「学校運営協議会」組織図

